

4月29・30日の2日間、「地域にエール いきいき瀬戸内」(市・山陽新聞社主催)が市内全域で開催されました。一部ですが紹介します。

前島の自然を満喫

牛窓潮風ハイクに54人

牛窓沖にある前島で4月29日、牛窓潮風ハイクが開催されました。8班54人が牛窓観光ボランティアアガイドの説明を受け、島内を散策。晴れ渡る空の下、心地よい潮風を受け、豊かな自然が残る前島の魅力を満喫しました。



好天に恵まれ、前島の豊かな自然の中を歩く参加者の皆さん

参加した大倉和代さん(58歳・岡山市)は、「前島の歴史を身近に感じ、自然を満喫できました。ボランティアアガイドさんの説明が、分かりやすくよかったです。また訪れてみたいですね」と参加した喜びを話してくれました。

自分たちで地域を輝かせよう

シンポジウム「語ろう瀬戸内市の未来」

シンポジウム「語ろう瀬戸内市の未来」が4月30日、邑久町公民館で開催され、市の将来像についての活発な討論に約300人が耳を傾けました。

重要性を訴えました。

パネルディスカッションでは、伝統文化の伝承、観光振興、子育て支援、スポーツ振興、地産地消啓発などに取り組む住民6人がパネリストとして登壇。それぞれの取り組みを紹介し、「地域の歴史や文化などを知り、誇りをもってPRすることが大切」「地域の皆さんと交流を広め、深める活動を続けたい」などと課題や決意を熱く語りました。

立岡脩二市長、板野忠司備前県民局長はコメンテーターとして参加。「人と地域の関係がキーワード。歴史や文化を生かし市の発展を」と話し、コーディネーターの藤原知明山陽新聞社論説委員会主幹が、「合併は、ゴールではない。自分たちが地域を輝かせていきたいという思いをもってほしい」と結びました。

芝桂子さん(38歳・邑久町福元)は、「これまでは、子育ての方面からしか市を見ていなかった。与えられるのを待つのではなく、知り合いをつくり交流の輪を広げ、自分のできることをしていきたい」と話していました。



熱心な議論が繰り広げられたパネルディスカッション



親子で仲良く肩を並べ、土ひねりに奮闘中!

陶芸教室が大人気

家族連れらでにぎわった寒風陶芸展

寒風陶芸展が5月3〜5日の3日間、牛窓町長浜の寒風陶芸会館で開催されました。寒風地区陶芸家の作品展示即売会や陶芸教室があり、大勢の家族連れでにぎわいました。とりわけ人気を集めていたのが陶芸教室。家族4人で陶芸教室に参加した清水健一ちゃん(7つ・倉敷市)「写真右」は、「粘土と違って難しい」と懸命に皿を作っていました。

あっという間に完売

邑久町公民館でとれとれ朝市

邑久町公民館駐車場で、4月29・30日の両日「とれとれ朝市」が開かれ、大勢の買い物客でにぎわいました。朝市では、地元でとれた魚と野菜を廉価で販売。魚売り場では、イカ、メバル、ゲタ、サヨリなど牛窓沖で水揚げしたばかりの魚が、野菜売り場では、ダイコン、タマネギ、キャベツ、ブロッコリーなど地元の新鮮野菜が販売され、買い物客はそれぞれ目当てのものを買い求めていました。



新鮮な魚や野菜を買い求めるお客さん



熱戦を繰り広げた3年生以下チームの試合の一場面。懸命にボールを追う選手たち

繰り広げられた熱戦

親睦ジュニアサッカー

瀬戸内市3地区親睦ジュニアサッカー交流大会が4月29日、邑久スポ

ーツ公園で開催されました。リーデル瀬戸内FCと長船サッカースポーツ少年団の2チーム、約120人が参加。選手たちは声を掛け合い、ボールを追ってグラウンドを駆け回り、得点が入るたびに保護者の皆さんから大きな拍手がわきおこりました。最高学年の対戦は、リーデル瀬戸内FCが4-0で快勝。2ゴールを決めたリーデル瀬戸内FCのキャプテン・出射翔君(11歳・牛窓町長浜)は、「なかなか勝てなかったチームに2ゴールを決めて勝ててうれしかった」と声を弾ませていました。そのほかの試合結果は、次のとおりです。

- 3年生以下チーム
- リーデル3-2長船
- 4年生チーム
- 長船8-0リーデル
- 5年生チーム
- 長船5-0リーデル